

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	看護学科	公衆衛生学	1年後期	1	原田 規章	本科目は、高齢者医療機関における臨床医としての経験、一般企業における産業医としての経験を踏まえて、実際の社会現場での医療の現状とあり方、具体的な対応の経験を説明することによって、教科書のみでは得られない教育効果を期している。	
保健医療学部	看護学科	精神看護学概論	2年前期	1	岩崎 優子	本科目は、精神科臨床看護師としての経験の知識・技能を生かした授業を展開する。（精神臨床看護師（看護師：国家資格））	
保健医療学部	看護学科	カウンセリングの理論と技法	2年後期	1	石橋 通江	「病老死苦」人には免れない4つの苦悩があります。看護は、人間が体験する苦悩をやわらげ、成長するのを支援する役割をもっています。カウンセリングの基礎的な知識と技術を備えることで、看護援助を展開するために必要とされるコミュニケーション能力を高めることが可能になります。精神科臨床看護師としての経験と公認心理師の資格を活かし、授業のなかでは講義だけではなく、実践的な演習を展開します。	
保健医療学部	看護学科	母性看護学援助論	2年後期	2	新地 裕子	本科目は、周産期看護の基礎となる妊産婦および新生児の生理的変化と異常について理解することを学習目標としている。学生が妊娠・出産におけるダイナミックな変化をイメージできるよう、産科施設にて助産師として周産期看護に携わった経験をふまえ、事例紹介とともに授業を展開する。複数の事例を通して必要な看護支援を考えることによって、対象理解を深め、より高いアセスメント力を養う。	
保健医療学部	看護学科	小児看護学方法論	3年前期	2	生田 まちよ	本科目は、実務経験のある教員が、小児看護に必要な看護実践能力を習得するために、小児看護技術習得に向け根拠・理論を概説し、グループワーク・発表やシミュレーション学習を行うものである。小児病棟での勤務経験を活かし、病棟での実際の看護実践の様子を概説したり、実際の看護の状況をイメージしやすいように教授する。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	精神看護学方法論	3年前期	2	岩崎 優子	本科目は、精神を病む人を理解し、健康を脅かされることによって生じる日常生活や社会生活への影響から回復するための援助方法について修得することを学習目標とする。教員自身の精神科病棟での臨床経験、訪問看護による地域生活支援をふまえ、実際の事例を基に、精神障害者が発症に至るまでの成育歴と社会的背景を分析することを通して対象者を理解する方法、対象者の個性を生かした援助方法について教授し、学生間のロールプレイ演習によって治療的コミュニケーション技術を習得できるよう授業展開している。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	地域・在宅看護方法論	3年前期	2	山崎 律子	本科目は、地域で療養生活を送る新生児から高齢者に応じた日常生活援助方法や医療処置を伴う看護援助方法を学ぶこと、および訪問看護師としての態度を養うことを目的に、観察力を高める在宅看護過程の展開を行っている。また、在宅での看護実践に必要な安全・安楽を保ちながら創意工夫する看護の探求や業者とも連携を図りながら社会資源の活用ができるよう演習している。さらに訪問看護師としてのマナーの教育も行っている。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	公衆衛生看護管理論	4年前期	2	疋田 理津子	本科目は、地域保健の対象別・課題別活動の理念、現状、施策、活動の実践について理解することを学習目標としている。学生が公衆衛生看護活動を具体的に理解できるよう、行政機関での保健師経験を活かし教授する。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	看護管理	4年前期	1	村田 尚恵	本科目は、臨床現場における教育専任看護師長の経験を活かし教授する。特に、看護職者のキャリア発展や現任教育のシステムについて説明するとともに、現状での課題について学生が考察するようにしている。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学Ⅰ	1年後期	1	新井 正一	本科目は、X線一般撮影法について授業である。診断能の高いX線画像とは、解剖学や生理学の知識とともに画像形成の諸性質を十分に理解する必要がある。担当教員によるこれまでの臨床現場での経験や知識を基に、X線撮影技術学を体系的に学習できるよう、また被ばくの軽減、医療人（診療放射線技師）としての心構え、ペイシエントケアについての話題も取り上げ、学生たちに伝える。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線生物学	2年前期	1	具 然和	本科目は、講義を通して、放射線生物学全般を理解し、放射線治療の臨床への応用について学ぶ。放射線治療が高精度化、複雑化、多様化に伴い、本講義では、放射線医学者及び放射線技術科学者としてがん治療に貢献する能力を身に付け、さらに放射線治療に関連する様々な臨床及び基礎研究を遂行する能力を身に付ける。放射線生物学一般、放射線腫瘍学一般、放射線免疫学に関する基礎知識を養う。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線安全管理学	2年後期	1	具 然和	本科目は、講義を通して、放射線影響あるいは放射線防護・安全に関する知識を体系的に認識させることを基本とし、実務に役立つ教育をすることが目的である。また、放射線の医療領域での利用に際して防護の基礎知識を与えることと医学及び生物学研究の際の放射線防護の個人管理についても役に立つ実践的な講義を行い、放射線リスクをいかに少なくして上手に利用するかの知識を養う。	
保健医療学部	放射線技術科学科	MR画像技術学	2年後期	1	吉田 豊	本科目は、MRI（磁気共鳴画像）の原理と特徴、臨床応用に関する知識を習得することが目的である。MRIは原理が難解であり、取り扱いの安全性について特別な配慮が必要のため、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、具体的な事例を織り交ぜつつ授業を進め、学生の理解を促している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像機器学Ⅱ	2年後期	1	川路 康之	本科目は、講義を通して、診療画像機器装置の構成・動作原理及び物理工学的特性を理解することを目標としている。機器の原理・特性について深い理解を得るためには臨床における診療画像機器の役割を知ることが重要となる。授業では実務経験を踏まえ、学生がそれぞれの装置の特性だけではなく、他の機器との比較によるメリット・デメリットなどが学べる構成になっている。	
保健医療学部	放射線技術科学科	核医学検査技術学Ⅲ	2年後期	1	筒井 悠治	本科目は、核医学検査に必要な放射性医薬品、検査原理、検査方法、画像再構成法などに関する学習を目的とする。大学病院における診療放射線技師としての臨床経験をふまえ、検査や画像再構成における技術的側面を中心に講義し、核医学検査技術や核医学画像再構成に関する考え方の理解を促す。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像機器学Ⅲ	2年後期	1	吉田 豊	本科目は、診療放射線技師国家試験の診療画像機器学に今後出題されると思われる最新の機器・検査に関する授業を含めている。学内に設置されている医療機器のみでは実習できない内容を、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、具体的な検査例を提示し、機器についての学生の理解を促している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	超音波画像技術学	3年前期	1	吉田 豊	本科目は、超音波診断装置の原理と特徴、臨床応用に関する知識を習得することが目的である。超音波検査は担当者の技量が診断に大きく反映されるので、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、同時期に行う上腹部超音波実習の内容を引用しながら、技術を伴った知識の習得ができるよう学生に指導している。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線治療技術学Ⅱ	3年前期	1	久家 教幸	本科目は、放射線治療技術習得が学習目標であり、放射線治療専門放射線技師としての臨床経験を踏まえ、現在の臨床に即した知識を教えることができ、放射線治療技術教科書+aの学習をすることが出来る。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	医療安全管理学Ⅱ	3年前期	1	中村 泰彦	本科目は、医療従事者の一人として必要な医療安全に関する基本的な知識の取得を学習目的とする。大学病院でのリスクマネージャーの経験をふまえ、リスクマネジメントのあり方、KYT実習を通じての危険予知トラブルの回避などの実践力を修得するとともに診療放射線技師の責任及び業務範囲を理解し、造影剤投与に伴う危険因子ならびに重篤な合併症の発生時の適切な対応を体験をもとに解説し、対応能力の重要性を促す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線安全管理学実験	3年前期	1	具 然和	本科目は、実験を通して、放射線影響を知ることで、放射線安全管理の重要性を認識する。放射線測定技術の習得を計るとともに、放射線の特性・物理的性質を理解する。また放射線防護の概念および放射線管理の目的に関して理解を深め、放射線管理の技術・方法を習得する。	新課程の為、令和5年度不開講

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線腫瘍学	3年前期	1	具 然和	本科目は、講義を通して、放射線生物学の知識を基礎とし、腫瘍の疫学・病理・病態・分類を系統的に学ぶ。治療における放射線に対する腫瘍感受性の修飾因子について、細胞・組織・臓器レベルごとに理解する。また、個々の腫瘍の性質を理解し、放射線治療の考え方を学ぶ。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線治療計画演習	4年前期	1	久家 敦幸	本科目は、実際の放射線治療計画装置を用いて、基本的な放射線治療計画を習得することが目的である。医学物理士として一般的な計画から高精度放射線治療計画の臨床経験してきたことを踏まえ、計画手法を理解させることにより、臨床現場における実践的な知識と技術を養わせることが可能である。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	検査科学科	臨床検査学概論	1年前期	1	大隈 雅紀	本科目は、臨床検査技師を目指す学生にとって最初の専門科目であり、臨床検査技師の業務内容、職場の魅力、研究や留学など、学生が持つ将来の夢を実際の臨床経験を基に講義・演習の形で授業を展開する。大学病院検査部の技師長経験者として「臨床検査の基礎」、「医療における臨床検査技師の役割」を理解させ、臨床検査の重要性について考え、今後の4年間、大学で勉学を続けるためのモチベーションを高めることを養う。	
保健医療学部	検査科学科	解剖学	1年前期	2	松田 洋和	本科目は、正常な人体の構造と各臓器の内臓解剖学に加え、組織学的構造までを系統的に学び、臨床検査に必要な解剖学的・組織学的知識の習得を目的としている。即ち、法医学教室における法医学解剖と病理組織学的検査を駆使した死因鑑定業務の豊富な経験を踏まえ、人体が細胞・組織・器官・器系という階層的かつ系統的に構成されていることを、実際の解剖例や抽出臓器の画像、並びに病理組織学的検査の画像を数多く取り入れて視覚的に学ばせることで理解を深め、後の臨床検査専門科目履修のための礎石となるよう授業を展開する。	
保健医療学部	検査科学科	医療安全管理学	1年後期	1	大隈 雅紀	平成27年4月より臨床検査技師等に関する法律が改正され、検体採取業務（微生物学的検査）の拡大、生理機能検査項目（味覚・嗅覚検査）が追加された。さらに技師による検査説明・相談に対する要望も高まり、臨床検査技師は、チーム医療の一員として重要な位置を占めるようになっていく。本科目は、病院の臨床検査技師としての臨床経験をふまえ、正しい検体採取の方法と考慮しなければならない倫理的な問題、医療安全について法的根拠をもとに学習を行う。さらに、チーム医療における臨床検査技師の役割についての意義と理解を促す。	
保健医療学部	検査科学科	病理検査学実習	2年後期	2	中野 智裕	病理検査学実習は正常の解剖・組織と病理学などの知識を基に、ブタの臓器を用いた病理組織標本の作成から、組織像、各種特殊染色の染色方法、染色の目的、染色結果について知識を修得する。当該実習の展開にあたり市中病院、検査センター、大学の病理学教室で臨床検査技師・細胞検査士として勤務し、病理組織検査業務に携わってきた経験を活かし、標本作製技術や各種特殊染色の知識が習得出来るように実習を展開する。	
保健医療学部	検査科学科	神経生理検査学実習	2年後期	1	片山 雅史	本科目では、神経生理の臨床現場で培った経験を生かし、多くの機器を操作し、患者と接する時間が長い検査としての必須事項を指導する。神経生理は、高いテクニックが要求される分野であるため、背景となる基礎的な学術知識に加えて、より現実味を帯びた実技指導を図る。また、臨床から検査結果の解釈を求められる機会が増加していることを鑑み、基本から難解な症例まで数多く紹介する。	
保健医療学部	検査科学科	臨地実習	3年後期	11	大隈 雅紀	本科目は、臨地実習を通して、医療チームの一員として臨床検査技師の役割を学び正しく行動できることを学習目標とする。大学病院での臨床検査技師としての実務経験を生かし、具体的な場面設定とシミュレーションを実習前演習として行い、病院での様々な状況に沿った判断力・実践力を修得するとともに、実習効果を高めることを促す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	臨床工学概論	1年前期	1	岡原 重幸	本科目は、臨床工学技士の成り立ちから今日までの推移および業務全般についての説明を行い、臨床工学技士の全体像を理解することを目的としている。講義に関しては自身の臨床経験も踏まえ実践的な形式で行う予定である。	
保健医療学部	医療工学科	生体計測装置学	2年後期	2	真茅 孝志	本科目は、臨床工学技士として生命維持管理装置を操作する際に必須となる、心電図、血圧などの生体情報を取得するための知識の理解を学習目標としている。臨床検査技師として手術室や心臓カテーテル検査室で各種生体計測に従事した経験を活かし、正確な生体情報を取得するために重要となる、各種計測装置の測定原理はもとより、測定誤差要因については自験例を交えることで、より実践的な知識の修得を図っている。なお、本科目で学習した内容を踏まえ、3年前期では生体計測装置学実習において、実際に各種計測装置の操作を行い、臨床工学技士に求められる生体計測技術の修得を目指す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	医療安全管理学Ⅰ	2年後期	1	真茅 孝志	本科目は、安全な医療の提供のため臨床工学技士に求められる事項のうち、①各種エネルギーによる生体反応、②医療機器に関する保守管理の基準、③医療電気設備に関する安全対策などの知識を習得することを目的としている。このうち臨床ME認定士として、手術室や心臓カテーテル検査室など幅広い臨床検査における上記②～③に関する業務経験を有している。これらの実務経験を踏まえ、実践的な内容の教授を行い、必要に応じて演習を取り入れることで、知識の定着を目指す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	医療安全管理学Ⅱ	2年後期	1	真茅 孝志	本科目は、医療安全管理学Ⅱに引き続き、安全な医療の提供のため臨床工学技士に求められる事項のうち、①医療カスに関する安全対策、②医療機器の保守管理技術の実際、③院内感染対策と医療機器の使用後の処理（洗浄・滅菌・消毒）、④臨床工学技士の関係法規などの知識を習得することを目的としている。このうち臨床ME認定士として、手術室や心臓カテーテル検査室における、上記①～④などの医療安全に関する業務経験を有している。とくに、①については医療カス安全管理技術者として、③については院内の感染対策委員としての活動経験も有する。以上の実務経験を踏まえ、実践的な内容の教授を行い、必要に応じて演習を取り入れることで、知識の定着を目指す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	医用治療機器学	2年後期	2	鹿島 裕	本科目は、医用治療機器を使用した治療が、安全に施行できるよう各機器の操作方法、副作用などを修得することを目的としている。電気的および機械的治療機器の原理・特性を理解したうえで、各治療機器の設定、安全管理、トラブル対処法についても教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例での使用例から、操作方法や合併症などのビジュアルを提示し、最新の治療機器について修得できるよう講義を展開する。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	呼吸療法Ⅰ	3年前期	1	岡原 重幸	本科目は、急性期での呼吸不全の病態に応じた呼吸管理について学ぶことを目標としている。呼吸管理に必要な呼吸器系の生理と病態について理解したうえで、機械的人工呼吸装置およびその他呼吸療法（酸素療法、吸入療法など）の原理・特性について教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例の操作や管理から各種モニタリングのビジュアルなどを提示し、最新の呼吸療法について修得できるよう講義を展開する。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	呼吸療法Ⅱ	3年前期	1	岡原 重幸	本科目は、急性期での呼吸不全の病態に応じた呼吸管理について学ぶことを目標としている。機械的人工呼吸装置およびその他呼吸療法（酸素療法、吸入療法など）の原理・特性を理解したうえで、呼吸療法の選択、操作、安全管理、トラブル対処法について教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例の操作や管理から各種モニタリングのビジュアルなどを提示し、最新の呼吸療法について修得できるよう講義を展開する。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	体外循環Ⅰ	3年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器外科領域での体外循環および疾病により機能不全に陥った循環器・呼吸器の機能代行法について学ぶことを目的としている。体外循環の対象となるのは、新生児から高齢者となるため、これらを網羅した循環器・呼吸器の解剖学、生理学、病態生理学、薬理学の基礎知識を必要とする。本講義では、新生児から高齢者への体外循環の臨床経験を基に、すべてのヒトに対応した体外循環技術について教授する。体外循環は人工臓器であるため、生体流体力学、材料工学などの基礎的知識も学び、体系的に体外循環の知識が修得できるよう講義を展開する。	新課程の為、令和5年度不開講

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	医療工学科	体外循環Ⅱ	3年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器外科領域での体外循環および疾病により機能不全に陥った循環器・呼吸器の機能代行法について学ぶことを目的としている。体外循環中の病態生理学に加え、重要臓器の微小循環におよぼす影響とその対処法について教授する。本講義では、新生児から高齢者への体外循環および補助循環の臨床経験を基に、前述した内容を補助循環領域にも対応させて講義を展開する。実際の症例を提示して、体外循環の管理法から各種モニタリングについて講義を行い、機械的循環・呼吸管理におけるヒトの全身管理について修得できるよう講義を展開する。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	血液浄化学Ⅰ	3年前期	1	山本 裕之	本科目は、疾患により低下した腎臓の機能を代行する治療である「血液透析」について学習することを目的とする。血液透析は医学的知識に加え、工学を含む多くの学問領域の知識も必要とする。本講義では、血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、主に血液透析療法の意義、原理、構成とともに治療に必要な医用材料および薬剤の種類や特徴に加え、水処理装置や透析液供給装置などの周辺機器について具体的かつ体系的に講義することで関連する知識の修得を目指す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	血液浄化学Ⅱ	3年前期	1	山本 裕之	本科目は、疾患により機能が低下した腎臓の機能を代行する治療である「血液透析」を始めとした腎代替療法およびその他の腎代替療法について学習することを目的とする。本講義では、血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、主に適切な血液透析治療を行う上で重要となる透析効率、食事療法などとともに、安全な透析液を調整するための透析用水および透析液の水質管理に加え、周辺機器の保守点検、感染対策・医療事故対策を教授する。更に、その他の腎代替療法として持続的血液浄化療法、腹膜透析、その他の腎代替療法としてアフエレーシス療法などについて具体的かつ体系的に講義することで関連する知識の修得を目指す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	臨床工学特論Ⅰ（集中治療）	4年前期	1	岡原 重幸	本科目は、演習を通して、エビデンスに基づいた急性期における呼吸療法、血液浄化、補助循環の知識と技術を取得することを学習目標とする。集中治療室における臨床工学技士としての臨床経験をふまえ、具体的な症例設定により、病態の理解、各治療方法の選択、人工呼吸器、補助循環装置の設定などのシミュレーション学習を行う。受講者に臨床での判断力・実践力を修得させるとともに、エビデンスへの探求と理解を促す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	臨床工学特論Ⅱ（循環制御）	4年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器領域での生命維持管理装置に携わる上で必要となる循環生理学を深く学び、学問に基づき演習を行い科学的な生命維持管理技術の修得を目標とする。臨床工学技士としての体外循環を経験を基に、実際の臨床データで演習を行い、洞察力、考察力を養いあらゆる場合に臨機応変に対応できる人材学習を行う。この講義を通じて、臨床現場での事象に科学的に判断し行動できる知識や技術の修得を目指す。	新課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	臨床工学特論Ⅲ（代謝管理）	4年前期	1	山本 裕之	本科目は、血液透析を含む代謝管理に必要な知識をさらに深めながら、臨床現場で特に重要である透析工学・透析液管理学の基礎から応用までの知識修得を目的とする。特に、本講義では血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、透析工学においては人工腎臓の理論および物質の生体内キネティクスを教授することで、適正透析の理解へと導き、透析液管理学では透析液中の化学的・生物学的汚染物質の基礎とその清浄化の理論と実際を学ぶ。本講義を通じて、臨床現場で血液浄化業務に関わる実践力・応用力を有した臨床工学技士として必要な知識の修得を目指す。	新課程の為、令和5年度不開講
単位数合計				61	※省令で定める基準単位数 1.3単位（学科単位）		

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	医療工学科	臨床工学概論	1年前期	2	岡原 重幸	本科目は、臨床工学技士の成り立ちから今日までの推移および業務全般についての説明を行い、臨床工学技士の全体像を理解することを目的としている。講義に関しては自身の臨床経験も踏まえて実践的な形式で行う予定である。	令和4年度入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	生体計測装置学	2年後期	1	真茅 孝志	本科目は、臨床工学技士として生命維持管理装置を操作する際に必須となる、心電図、血圧などの生体情報を取得するための知識の理解を学習目標としている。臨床検査技師として手術室や心臓カテーテル検査室で各種生体計測に従事した経験を活かし、正確な生体情報を取得するために重要となる、各種計測装置の測定原理はもとより、測定誤差要因については自験例を交えることで、より実践的な知識の修得を図っている。なお、本科目で学習した内容を踏まえ、3年前期では生体計測装置学実習において、実際に各種計測装置の操作を行い、臨床工学技士に求められる生体計測技術の修得を目指す。	
保健医療学部	医療工学科	医用機器安全管理学	2年後期	2	真茅 孝志	本科目は、安全な医療の提供のため臨床工学技士に求められる、①医療機器に関する安全と保守管理技術、②医療カスに関する安全対策、③医療電気設備に関する安全対策などの知識を習得することを目的としている。臨床経験として、手術室や心臓カテーテル検査室において、臨床ME認定士、医療カス安全管理技術者として、上記①～③など医療安全に関する業務経験を有している。これらの実務経験を踏まえ、実践的な内容の教授を行いつつ、必要に応じて演習を取り入れることで、知識の定着を目指す。	
保健医療学部	医療工学科	体外循環医学	3年前期	2	吉川 貴則	本科目は、心臓血管外科を中心とした循環領域での外科手術における体外循環について学ぶことを目的としている。体外循環の対象となるのは、生後まもない新生児から高齢者にまで至るため、これらを網羅した循環器・呼吸器の解剖学、生理学、病理学、薬理学の基礎知識が必要となる。小児および成人の体外循環の臨床経験を基に、実際の症例データ等を提示しながら、すべてのヒトに対応した体外循環技術を修得できるよう講義を展開する予定である。体外循環は人工臓器であるため、生体流体力学、材料工学などの基礎知識もついでに学び、医学と工学の知識を修得したうえで移植医療、呼吸器領域および救急領域など各領域ごとに安全な医療技術を提供できるように安全管理、保守管理、トラブル対応などリスクマネジメントについても教授する。	令和4年度入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	血液透析学	3年前期	2	山本 裕之	本科目は、疾患により低下した腎臓の機能を代行する治療である「血液透析」について主に学習する。血液透析は医学的知識に加え、工学を含む多くの学問領域の知識を必要とする。講義では、血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、血液透析療法の意義、原理、構成とともに治療に必要な医用材料や薬剤の種類や特徴とともに、血液透析治療に必要な機器および周辺機器の特徴・管理について具体的なかつ体系的に講義を行う。また、その他の腎代替療法についても教授することで、多様な知識の修得を目指す。	令和4年度入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	呼吸療法学	3年前期	2	岡原 重幸	本科目は、集中治療領域での呼吸不全の病態に応じた呼吸管理について学ぶことを目標としている。機械的人工呼吸装置およびその他呼吸療法（酸素療法、吸入療法など）の原理・特性を理解したうえで、呼吸療法の選択、設定、安全管理、トラブル対処法についても教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例から各種モニタリングのビジュアルなどを提示し、最新の呼吸療法について修得できるよう講義を展開する。	令和4年度入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	呼吸管理特論	4年前期	1	岡原 重幸	本科目は、演習を通して、エビデンスに基づいた急性期における呼吸療法技術を取得することを学習目標とする。集中治療室における臨床工学技士としての臨床経験をふまえ、具体的な症例設定により、病態の理解、呼吸療法の選択、人工呼吸器の設定などのシミュレーション学習を行う。受講者に臨床での判断力・実践力を修得させるとともに、エビデンスへの探求と理解を促す。	令和4年度入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	代謝管理特論	4年前期	1	山本 裕之	本科目は、血液透析を含む代謝管理に必要な知識をさらに深めながら、臨床現場で特に重要である透析工学・透析液管理学の基礎から応用までの知識修得を目的とする。特に、本講義では血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、透析工学においては人工腎臓の理論および物質の生体内キネティクスを教授することで、適正透析の理解へと導き、透析液管理学では透析液中の化学的・生物学的汚染物質の基礎とその浄化の理論と実際を学ぶ。本講義を通じて、臨床現場で血液浄化業務に関わる実践力・応用力を有した臨床工学技士として必要な知識の修得を目指す。	令和4年度入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	循環制御特論	4年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器領域での生命維持管理装置に携わる上で必要となる循環生理学を深く学び、学問に基づき演習を行い科学的な生命維持管理技術の修得を目標とする。臨床工学技士としての体外循環を経験を基に、実際の臨床データで演習を行い、洞察力、考察力を養いあらゆる場合に臨機応変に対応できる人材学習を行う。この講義を通じて、臨床現場での事象に科学的に判断し行動できる知識や技術の修得を目指す。	令和4年度入学生用課程の為、令和5年度不開講
単位数合計				14	※省令で定める基準単位数 13単位（学科単位）		

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	看護学科	公衆衛生学	1年後期	1	原田 規章	本科目は、高齢者医療機関における臨床医としての経験、一般企業における産業医としての経験を踏まえて、実際の社会現場での医療の現状とあり方、具体的な対応の経験を説明することによって、教科書のみでは得られない教育効果を期している。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	精神看護学概論	2年前期	1	岩崎 優子	本科目は、精神科臨床看護師としての経験の知識・技能を生かした授業を展開する。(精神科臨床看護師(看護師:国家資格))	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	カウンセリングの理論と技法	2年後期	1	石橋 通江	本科目は、公認心理師・学校心理士の有資格者として、カウンセリング理論を教授し、具体的事例を用いた演習展開を行う。(公認心理師(国家資格)、学校心理士(認定資格)、精神科臨床看護師(看護師:国家資格))	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	母性看護学援助論	2年後期	2	新地 裕子	本科目は、周産期看護の基礎となる妊産婦および新生児の生理的変化と異常について理解することを学習目標としている。学生が妊娠・出産におけるダイナミックな変化をイメージできるよう、産科施設にて助産師として周産期看護に携わった経験をふまえ、事例紹介とともに授業を展開する。複数の事例を通して必要な看護支援を考えることによって、対象理解を深め、より高いアセスメント力を養う。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	公衆衛生看護学管理論 I	2年後期	2	柴田 恵子	本科目は、地域保健の対象別・課題別活動の理念、現状、施策、活動の実態について理解することを学習目標としている。学生が公衆衛生看護活動を具体的に理解できるよう、行政機関での保健師経験を活かし教授する。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	看護学科	精神看護学方法論	3年前期	2	脇崎 裕子	本科目は、精神を病む人を理解し、健康を脅かされることによって生じる日常生活や社会生活への影響から回復するための援助方法について修得することを学習目標とする。担当教員は、精神科病棟での臨床経験、訪問看護およびボランティア活動による地域生活支援をふまえ、実際の事例を基に授業展開している。精神障害者が発症に至るまでの成長歴と社会的背景を分析することを通して対象者を理解する方法、対象者の個性を生かした援助方法について教授する。またロールプレイによるプロセスレコード演習により自己のコミュニケーションを振り返り、治療的コミュニケーション技術が習得できるよう授業展開している。	
保健医療学部	看護学科	在宅看護学方法論	3年前期	2	山崎 律子	本科目は、地域で療養生活を送る新生児から高齢者に応じた日常生活援助方法や医療処置を伴う看護援助方法を学ぶこと、および訪問看護師としての態度を養うことを目的に、観察力を高める在宅看護過程の展開を行っている。また、在宅での看護実践に必要な安全・安楽を保ちながら創製工夫する看護の探求や業者とも連携を図りながら社会資源の活用ができるよう演習している。さらに訪問看護師としてのマナーの教育も行っている。	
保健医療学部	看護学科	看護管理	3年前期	1	村田 尚恵	本科目は、臨床現場における教育専任看護師長の経験を活かし教授する。特に、看護職者のキャリア発展や現任教育のシステムについて説明するとともに、現状での課題について学生が考察するようにしている。	
保健医療学部	看護学科	小児看護学方法論	3年前期	2	葛山 加也子	本科目は、実務経験のある教員が、小児看護に必要な看護実践能力を習得するために、小児看護技術習得に向け根拠・理論を概説し、グループワーク・発表やシミュレーション学習を行うものである。小児病棟での勤務経験を活かし、病棟での実際の看護実践の様子を概説したり、実際の看護の状況をイメージしやすいように教授する。	
保健医療学部	看護学科	統合看護論 I	4年前期	1	後藤 みゆき	本科目は、がん患者の全人的苦痛に対して、緩和ケアを中心としたケアの在り方について、エビデンスを踏まえながら、「good death」を考える。本科目では、終末期を見据えたケアについて、学生の思考を深めることを目標とする。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学 I	1年後期	1	新井 正一	本科目は、X線一般撮影法について授業である。診断能の高いX線画像とは、解剖学や生理学の知識とともに画像形成の諸性質を十分に理解する必要がある。担当教員によるこれまでの臨床現場での経験や知識を基に、X線撮影技術学を体系的に学習できるよう、また被ばくの軽減、医療人(診療放射線技師)としての心構え、パシエントケアについての話題も取り上げ、学生たちに伝える。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線生物学	2年前期	1	具 然和	本科目は、講義を通して、放射線生物学全般を理解し、放射線治療の臨床への応用について学ぶ。放射線治療が高精度化、複雑化、多様化に伴い、本講義では、放射線医学者及び放射線技術科学者としてがん治療に貢献する能力を身に付け、さらに放射線治療に関連する様々な臨床及び基礎研究を遂行する能力を身に付ける。放射線生物学一般、放射線腫瘍学一般、放射線免疫学に関する基礎知識を養う。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線安全管理学	2年後期	1	具 然和	本科目は、講義を通して、放射線影響あるいは放射線防護・安全に関する知識を体系的に認識させることを基本とし、実務に役立つ教育をすることが目的である。また、放射線の医療領域での利用に際して防護の基礎知識を与えることと医学及び生物学研究の際の放射線防護の個人管理についても役に立つ実践的講義を行い、放射線リスクをいかに少なくして上手に利用するかの知識を養う。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学 V	2年後期	1	吉田 豊	本科目は、MRI(磁気共鳴画像)の原理と特徴、臨床応用に関する知識を習得することが目的である。MRIは原理が難解であり、取り扱いの安全性について特別な配慮が必要のため、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、具体的な事例を織り交ぜつつ授業を進め、学生の理解を促している。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像機器工学 II	2年後期	1	川路 康之	本科目は、講義を通して、診療画像機器装置の構成・動作原理及び物理工学的特性を理解することを目標としている。機器の原理・特性について深い理解を得るためには臨床における診療画像機器の役割を知ることが重要となる。授業では実務経験を踏まえ、学生がそれぞれの装置の特性だけでなく、他の機器との比較によるメリット・デメリットなどが学べる構成になっている。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	核医学検査技術学 III	2年後期	1	岡井 悠治	本科目は、核医学検査に必要な放射性医薬品、検査原理、検査方法、画像再構成法などに関する学習を目的とする。大学病院における診療放射線技師としての臨床経験をふまえ、検査や画像再構成における技術的側面を中心に講義し、核医学検査技術や核医学画像再構成に関する考え方の理解を促す。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像機器工学 III	2年後期	1	吉田 豊	本科目は、診療放射線技師国家試験の診療画像機器学に今後出題されると思われる最新の機器・検査に関する授業を含めている。学内に設置されている医療機器のみでは実習できない内容を、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、具体的な検査例を提示し、機器についての学生の理解を促している。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学 VI	3年前期	1	吉田 豊	本科目は、超音波診断装置の原理と特徴、臨床応用に関する知識を習得することが目的である。超音波検査は担当者の技量が診断に大きく反映されるので、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、同時期に行う上腹部超音波実習の内容を引用しながら、技術を伴った知識の習得ができるよう学生に指導している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線治療技術学 II	3年前期	1	久家 教幸	本科目は、放射線治療技術習得が学習目標であり、放射線治療専門放射線技師としての臨床経験を踏まえ、現在の臨床に即した知識を教えることができ、放射線治療技術教科書+αの学習をすることが出来る。	
保健医療学部	放射線技術科学科	医療安全管理学	3年前期	1	中村 泰彦	本科目は、医療従事者の一人として必要な医療安全に関する基本的な知識の取得を学習目的とする。大学病院でのリスクマネージャーの経験をふまえ、リスクマネジメントのあり方、KYT実習を通じての危険予知トラブルの回避などの実践力を修得するとともに診療放射線技師の責任及び業務範囲を理解し、造影剤投与に伴う危険因子ならびに重篤な合併症の発生時の適切な対応を体験をもとに解説し、対処能力の重要性を促す。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線安全管理学実験	3年前期	1	具 然和	本科目は、実験を通して、放射線影響を知ることで、放射線安全管理の重要性を認識する。放射線測定技術の習得を計るとともに、放射線の特性・物理的性質を理解する。また放射線防護の概念および放射線管理の目的に関して理解を深め、放射線管理の技術・方法を習得する。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線腫瘍学	3年前期	1	具 然和	本科目は、講義を通して、放射線生物学の知識を基礎とし、腫瘍の疫学・病理・病態・分類を系統的に学ぶ。治療における放射線に対する腫瘍感受性の修飾因子について、細胞・組織・臓器レベルごとに理解する。また、個々の腫瘍の性質を理解し、放射線治療の考え方を学ぶ。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線治療計画演習	4年前期	1	久家 教幸	本科目は、実際の放射線治療計画装置を用いて、基本的な放射線治療計画を習得することが目的である。医学物理士として一般的な計画から高精度放射線治療計画の臨床経験してきたことを踏まえ、計画手法を理解させることにより、臨床現場における実践的な知識と技術を養わせることが可能である。	

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	検査科学科	検査学概論	1年前期	1	大隈 雅紀	本科目は、臨床検査技師を目指す学生にとって最初の専門科目であり、臨床検査技師の業務内容、職場の魅力、研究や留学など、学生が持つ将来の夢を実際の臨床経験を基に講義・演習の形で授業を展開する。大学病院検査部の技師長経験者として「臨床検査の基礎」、「医療における臨床検査技師の役割」を理解させ、臨床検査の重要性について考え、今後の4年間、大学で勉学を続けるためのモチベーションを高めることを養う。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	検査科学科	解剖学	1年前期	2	松田 洋和	本科目は、正常な人体の構造と各臓器の肉眼解剖学に加え、組織学的構造までを系統的に学び、臨床検査に必要な解剖学的・組織学的知識の習得を目的としている。即ち、法医学教室における法医学解剖と病理組織学的検査と駆使した死因鑑定業務の豊富な経験を踏まえ、人体が細胞・組織・器官・器官系という階層的かつ系統的に構成されていることを、実際の解剖例や抽出臓器の画像、並びに病理組織学的検査の画像を数多く取り入れて視覚的に学ばせることで理解を深め、後の臨床検査専門科目履修のための礎石となるよう授業を展開する。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	検査科学科	病理検査学実習	2年後期	2	中野 智裕	本科目は、実習を通して病理組織標本を作製する全行程において、染色前の工程（組織の切り出し・固定・脱灰・包埋・薄切）ならびに各種染色法におけるそれぞれの意義・目的、原理、操作手法、注意点を理解することを学習の目的とする。臨床検査技師としての実務経験をふまえ、正しい病理組織診断に必要な、迅速で誤りのない病理組織標本作製の基本的な技術を修得する。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	検査科学科	生理機能検査学実習	2年後期	2	片山 雅史	本科目では、病院での生理検査室における臨床経験を生かし、循環生理・神経生理・呼吸生理それぞれと接する検査としての必須事項を指導する。検査機器の測定原理を理解した上での機器操作法、検査の実施方法を習得するばかりではなく、検査結果の解釈において、患者背景や症状、その他検査時の環境条件なども加味し、正確な診断につながる結果を得ることを目的とする。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	検査科学科	医療安全管理学	3年前期	1	大隈 雅紀	平成27年4月より臨床検査技師等に関する法律が改正され、検体採取業務（微生物学的検査）の拡大、生理機能検査項目（味覚・嗅覚検査）が追加された。さらに技師による検査説明・相談に対する要望も高まり、臨床検査技師は、チーム医療の一員として重要な位置を占めるようになっていく。本科目は、病院の臨床検査技師としての臨床経験をふまえ、正しい検体採取の方法と考慮しなければならない倫理的な問題、医療安全について法的根拠をもとに学習を行う。さらに、チーム医療における臨床検査技師の役割についての意義と理解を促す。	
保健医療学部	検査科学科	臨床実習	3年後期	7	大隈 雅紀	本科目は、臨床実習を通して、医療チームの一員として臨床検査技師の役割を学び正しく行動できることを学習目標とする。大学病院での臨床検査技師としての実務経験を生かし、具体的な場面設定とシミュレーションを実習前演習として行い、病院での様々な状況に沿った判断力・実践力を修得するとともに、実習効果も高めることを促す。	
保健医療学部	医療工学科	臨床工学概論	1年前期	2	岡原 重幸	本科目は、臨床工学技術士の成り立ちから今日までの推移および業務全般についての説明を行い、臨床工学技術士の全体像を理解することを目的としている。講義に関しては自身の臨床経験も踏まえて実践的な形式で行う予定である。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	生体計測装置学	2年後期	1	真茅 孝志	本科目は、臨床工学技術士として生命維持管理装置を操作する際に必須となる、心電図、血圧などの生体情報を取得するための知識の理解を学習目標としている。臨床検査技師として手術室や心臓カテーテル検査室で各種生体計測に従事した経験を活かし、正確な生体情報を取得するために重要となる、各種計測装置の測定原理はもとより、測定誤差要因については自験例を交えることで、より実践的な知識の修得を図っている。なお、本科目で学習した内容を踏まえ、3年前期では生体計測装置学実習において、実際に各種計測装置の操作を行い、臨床工学技術士に求められる生体計測技術の修得を目指す。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	医用機器安全管理学	2年後期	2	真茅 孝志	本科目は、安全な医療の提供のため臨床工学技術士に求められる、①医療機器に関する安全と保守管理技術、②医療力士に関する安全対策、③医療電気設備に関する安全対策などの知識を習得することを目的としている。臨床経験として、手術室や心臓カテーテル検査室において、臨床ME認定者、医療力士安全管理技術者として、上記①～③など医療安全に関する業務経験を有している。これらの実務経験を踏まえ、実践的な内容の教授を行い、必要に応じて演習を取り入れることで、知識の定着を目指す。	令和3年度以前入学生用課程の為、令和5年度不開講
保健医療学部	医療工学科	体外循環医学	3年前期	2	吉川 貴則	本科目は、心臓血管外科を中心とした循環領域での外科手術における体外循環について学ぶことを目的としている。体外循環の対象となるのは、生後まもない新生児から高齢者にまで至るため、これらを網羅した循環器・呼吸器の解剖学、生理学、病理学、薬理学の基礎知識が必要となる。小児および成人の体外循環の臨床経験を基に、実際の症例データ等を提示しながら、すべてのヒトに対応した体外循環技術を修得できるよう講義を展開する予定である。体外循環は人工臓器であるため、生体流体力学、材料工学などの基礎的知識もついても学び、医学と工学の知識を修得したうえで移植医療、呼吸器領域および救急領域など各領域ごとに安全な医療技術を提供できるように安全管理、保守管理、トラブル対処などリスクマネジメントについても教授する。	
保健医療学部	医療工学科	血液透析学	3年前期	2	山本 裕之	本科目は、疾患により低下した腎臓の機能を代行する治療である「血液透析」について主に学習する。血液透析は医学的知識に加え、工学を含む多くの学問領域の知識を必要とする。講義では、血液浄化施設での臨床工学技術士としての実務経験を生かし、血液透析療法の意義、原理、構成とともに治療に必要な医用材料や薬剤の種類や特徴とともに、血液透析治療に必要な機器および周辺機器の特徴・管理について具体的なかつ体系的に講義を行う。また、その他の腎代替療法についても教授することで、多様な知識の修得を目指す。	
保健医療学部	医療工学科	呼吸療法学	3年前期	2	岡原 重幸	本科目は、集中治療領域での呼吸不全の病態に応じた呼吸管理について学ぶことを目標としている。機械的人工呼吸装置およびその他呼吸療法（酸素療法、吸入療法など）の原理・特性を理解したうえで、呼吸療法の選択、設定、安全管理、トラブル対処法についても教授する。臨床工学技術士としての臨床経験を生かし、実際の症例から各種モニタリングのビジュアルなどを提示し、最新の呼吸療法について修得できるよう講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	呼吸管理特論	4年前期	1	岡原 重幸	本科目は、演習を通して、エビデンスに基づいた急性期における呼吸療法技術を取得することを学習目標とする。集中治療室における臨床工学技術士としての臨床経験をふまえ、具体的な症例設定により、病態の理解、呼吸療法の選択、人工呼吸器の設定などのシミュレーション学習を行う。受講者に臨床での判断力・実践力を修得させるとともに、エビデンスへの探求と理解を促す。	
保健医療学部	医療工学科	循環制御特論	4年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器領域での生命維持管理装置に携わる上で必要となる循環生理学を深く学び、学問に基づき演習を行い科学的な生命維持管理技術の修得を目標とする。臨床工学技術士としての経験を基に、実際の臨床データで演習を行い、洞察力・観察力を養い循環呼吸管理においてあらゆる場面に臨機応変に対応できる人材学習を行う。この講義を通じて、臨床現場での事象に科学的根拠を基に行動できる知識や技術の修得を目指す。	
単位数合計				56	※省令で定める基準単位数 13単位（学科単位）		